授業科目名	発達障害と医療	単位数	1単位
担当教員名	高木　一江	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	児童精神科医である教員が、発達障害と医療との関係を踏まえて発達障害児・者に対する対処スキル等について解説する。		

「学位授与の方針」との関係

DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知）
DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）

授業のテーマ及び到達目標

　近年、発達障害への関心が高まってきており、適切な理解と対応が必要とされている。
発達障害は、人生の早い時期に社会的諸関係のなかで現れる障害であり、その原因は脳機能障害にある。医学的には「神経発達症」と定義され、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）、知的能力症（ID）、発達性協調運動症（DCD）等がある。神経発達症は、知的には遅れのない例から、重度の遅れを伴う例まで幅広い分布を示す。
　本講座では発達障害の特性や本質を理解し、発達障害児・者の社会的困難への対処スキルを学ぶ。さらに肯定的介入方法について理解する。特に医学的に現在究明されている点を理解するとともに、他機関あるいは多職種の連携などについても学修する。

授業の概要

　具体的内容は、現代の社会的環境、子どもの心の発達、発達障害とは何か（脳の構造と働き）、発達障害の診断、心理や行動の評価、発達障害の特性と働きかけの原則、二次障害と併存障害、エビデンスに基づく療育・薬物療法・心理的アプローチ、多職種連携による支援、ライフステージに添った支援である。

授業計画

第１回：現代の社会的環境
第２回：子どもの心の発達
第３回：発達障害とは何か（脳の構造と働き）
第４回：発達障害の診断と心理や行動の評価
第５回：発達障害各論（１−１）ASD
第６回：発達障害各論（１−２）ASD
第７回：発達障害各論（２）ADHD
第８回：発達障害各論（３）SLD
第９回：発達障害各論（４）DCD
第１０回：発達障害の二次障害と併存障害
第１１回：エビデンスに基づく療育技法（PECS・TEACCHなど）
第１２回：エビデンスに基づく薬物療法
第１３回：エビデンスに基づく心理的アプローチ（CARE、PCIT、TF-CBTなど）
第１４回：教育・福祉等との多職種連携による支援
第１５回：ライフステージに添った支援
科目修得試験

スクーリングでの学修

　発達障害の医療について知り、発達障害についての理解を深めることにより、日常生活において発達障害を持つ当事者への受容、療育的介入、教育における合理的配慮と特別支援、医療・教育・福祉等との多職種連携、ライフステージに添って必要な支援によりよい対応ができるようにすることが大切である。具体的事例も交えながら解説する。

テキスト

市川宏伸（監修）（2016）「発達障害キーワード＆キーポイント」金子書房、　978-4760824038

参考書・参考資料等

授業の際に適宜紹介する。

学生に対する評価

スクーリング評価（50%）、科目修得試験（50%）